

令和3年度実施 大網白里市住民協働事業 成果報告書

事業名	日本語教室の運営	
事業主体	実施団体	市（関係課）
	日本語教室委員会	教育委員会生涯学習課

事業費	予算額	決算見込額	市補助金額（交付確定額）
	284,260 円	71,208 円	58,000 円

【 ①目的・課題について 】

次の事項がわかるように、事業概要を記入してください。

○どのような地域課題（行政課題）、住民ニーズに対して、

○いつ ○どこで ○誰を対象に ○どんなことを ○どのような方法で実施したか。

コロナ禍で外国人の入国が出来ない状況にあるが、他地域からの転入による市内在住の外国人は年々増加している。一方、感染防止による人と人の交流制限や、地域住民との交流・意思の疎通は、言葉や文化の違いなども含め、コミュニケーションを取ることが極めて難しくなっている。

このため、中央公民館の特別講座により、市内在住外国人に対し「たのしい日本語教室」を実施しているが、「たのしい日本語教室」だけでは対応が困難な様々な学習要望に応えられるようにするため、日本語教室委員会により「日本語支援S・Mクラス」を開設する。また、在住外国人と地域住民の交流や情報交換の場として「グローバルカフェ」を併せて開設する。

実施場所は大網白里市中央公民館において、毎月第3土曜日（10:00～11:30）に日本語支援Sクラスを、第4土曜日（10:00～11:30）に日本語支援Mクラスを実施する。

グローバルカフェは、毎月第4土曜日（13:30～16:00）に日本語支援S・Mクラスの学習を補完する事業として実施する。

日本語支援Sクラスの学習方法は、日本語教師により日常生活で使用する日本語による会話や読み書きについて教室スタイルにより指導する。

日本語支援Mクラスの学習方法は、教師経験者等のボランティア講師によりマンツーマン方式による指導方法で生活に密着した日本語の使い方等について指導する。

グローバルカフェは、外国人住民の日本語学習支援の場とするとともに、地域住民や子ども達にも参加していただき、情報交換や交流の場を提供し、行政情報・生活習慣等に関する講座や、日本語教室学習者のやさしい日本語によるスピーチなども実施する。

令和3年度における「日本語支援S・Mクラス」は、感染防止のために年間計画の半期程度しか実施できず、また、グローバルカフェも人と人との交流が制限されたことにより実施できなかった。

【 ②企画・効果 】

次の事項がわかるように、成果を記入してください。

○事業の内容が具体的で目標達成に向けて適切だったか。

○協働で行うことでどのような効果が得られたか。

○住民の満足度は得られたか。 ○他の団体との連携や協力により効果をあげたか。

○事業を行うことで、市民や地域、他の団体への波及効果（広がり）はあったか。

○コロナ禍で当初計画のとおり実施出来なかったが、国や県の指針によるステイホームの状況下で、感染対策を確実にして対面による教室を開催した。互いに顔をみて会話が出る事に、日本語の習得だけでなく、最も大事な意思の疎通ができた事に、学習者も教師も支援者も喜びを感じており、これこそ多文化共生の精神だと感じている。また、オンラインによる授業も開設して新しい多様な学習手法も取り入れたことで学習の機会が広がっている。

○市と協働で実施する多文化共生推進施策プランの一環として、在住外国人が日本で生活するために必要な日本語の読み書きや、会話を教える事に対して、市との協働は公益性があり、在住外国人も安心して学ぶことが出来ると評価を得ている。

○ボランティア講師は、外国人を含めた住民の協力で実施しているが、コロナ禍にも拘らず積極的に参加していただいております、大変評価を得ている。

○本市の国際交流協会の直接的な協力や、千葉市の国際交流協会の協力により、コロナ禍における多文化共生推進施策の在り方等について、オンラインによる研修も実施している。

○コロナ禍における制限された活動となったが、千葉市や千葉県の国際関係団体との、オンラインによる多文化共生の在り方等における新しい研修や、交流スタイルを取り入れることにより、当委員会の日本語教室への波及効果もあり、今後の活動に活かせるものと感じている。

協働による効果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
☐ 効果があった ☒ 概ね効果があった ☐ あまり効果はなかった。 （理由）	☐ 効果があった ☒ 概ね効果があった ☐ あまり効果はなかった。 （理由） 行政では、外国人に日本語を教えるスキルがなく、日本語教室委員会の持つノウハウを生かした日本語指導ができたことは参加者への効果は高い。

【 ③実行力 】

団体と市の役割分担について、実際に担った役割を記入してください。

団体の役割	市（関係課）の役割
○日本語教室の運営。 ①学習者、日本語教師、ボランティアの募集 ②カリキュラムの作成。 ③指導内容の検討（教師、ボランティア） ④指導教科の検討（教師、ボランティア） ⑤学習者の個別要望の聴取と指導内容の検討。 ⑥学習者のアンケート調査。 ⑥日本語教室の運営に係る事務処理。	・日本語教室についての案内チラシを作成し、公共施設等へ配架することで広く周知した。 ・日本語支援S・Mクラスを実施するための場所（中央公民館施設）の施設使用申請等を行った。

また、その役割分担は適正であったかについて、自己評価（☒）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
☐ 適正であった ☒ 概ね適正であった ☐ あまり適正でなかった （理由）	☐ 適正であった ☒ 概ね適正であった ☐ あまり適正でなかった （理由） 活動場所を迅速に確保することで、日本語教室を実施する上で、計画的な授業を展開することができる。 また、公共施設等で案内チラシを配付することで多くの人へ周知を図ることができた。

事業スケジュールについて、当初の計画と実際に実施した内容（実績）を詳細に記入してください。

当初の計画	実 績
令和3年4月～令和4年3月(8月は休室) ○日本語教室 (1) 開講日 毎月 第3土曜日 ・日本語支援Sクラス：10:00 ～ 11:30 毎月 第4土曜日	令和3年4月、7月、10月～12月、令和4年2月、3月 一部ON LINEで実施。 ○日本語教室 (1) 開講日 毎月 第3土曜日 ・日本語支援Sクラス：10:00 ～ 11:30

・日本語支援Mクラス：10:00 ～ 11:30 (2) カリキュラム ①日本語支援Sクラスは、「たのしい日本語教室」A・Bクラスで学んだ会話・読み書きの総復習をします。 また、毎回テーマを掲げており、4月のテーマは、コロナ禍の生活について勉強する予定です。 ・5月以降のテーマは、ワクチン接種について、交通、病院、買い物、地震、津波等について学習する予定です。 ②日本語支援Mクラスは、マン・ツー・マン方式による個別指導をします。また、日本語支援Sクラスで学んだ復習をします。 ・日本語会話学習の教材で勉強すると同時に日本語及び日本社会を学習するための機会の継続的な提供を行うため、能力に応じた個別指導を実施します。 ・5月以降も同様のカリキュラムの予定です。 ○グローバルカフェ (1) 開設日 毎月、第4土曜日の13:30 ～ 16:00に、日本語教室Sクラス及びMクラスの学習を補完する事業として運営します。 運営の目的は、「外国人住民への日本語学習支援の場」とするとともに、地域住民や子ども達にも参加していただき、情報交換や交流の場を提供し、「行政情報・生活習慣等に関する講座」として、出前講座や「日本語教室学習者のやさしい日本語によるスピーチ」などを実施します。	毎月 第4土曜日 ・日本語支援Mクラス：10:00 ～ 11:30 (2) カリキュラム ①日本語支援Sクラスは、「たのしい日本語教室」A・Bクラスで学んだ会話・読み書きの総復習を行なった。 また、毎回テーマを掲げており、9月のテーマは、新型コロナウイルス禍の生活スタイルについて意見交換を行なった。 ・10月以降のテーマは、防災、買い物、緊急時の電話のかけ方について学習した。 ・ON LINE による授業も試験的に実施した。 ②日本語支援Mクラスは、マン・ツー・マン方式による個別指導を行なった。また、日本語支援Sクラスで学んだ復習を行なった。 ・日本語会話学習の教材で勉強すると同時に、日本語及び日本社会を学習するための機会の継続的な提供を行うため、能力に応じた個別指導を実施した。 ○グローバルカフェ 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、人と人の接触を伴う交流が基本となるグローバルカフェは全面休止とした。 12月に地域の皆様との交流の場としての特別講演会を実施した。
---	--

また、当初の計画と実績をみて、事業スケジュールの組み立ては妥当であったかについて、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体
☐ 適正であった ☒ 概ね適正であった ☐ あまり適正でなかった (理由) ・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、日本語教室は令和3年4月、7月、10月～12月、令和4年2月、3月及び一部 ON LINE で実施し、グローバルカフェについては、人と人との接触を伴うために感染予防に関する国・県の指針に基づいて休止とした。

【 ④継続性 】

住民協働事業により「人・もの・情報・スキル」等、団体の活動基盤が強化した点や活性化した点について記入してください。

(例：〇〇を購入したことにより〇〇のスキルが上がり、効率的に活動できた。〇〇活動により団体の認知度が高まり、参加者が増えるとともに会員も増えた。)

また、2年目、3年目の事業については、1年前、2年前と比べて、事業を継続したことで得られた効果も記入してください。

○人については、協働事業により認知度が高まり、ボランティアの資質等が向上して強化された。

○ものについては、教科書等の充実が図られて、学習者に対する効率的な指導が出来た。

○コロナ禍による活動制限がある中で感染対策の徹底による対面方式で教える事と意思の疎通を図る事ができ、学習者・支援者ともに大変な喜びを感じることができた。また、オンラインによる新しい学習システムの導入により、多様な指導方法の導入が出来た。

また、3年目、4年目については、コロナ収束後の持続可能な多文化共生推進施策の一環として、日本語教室を継続していきたいと思っています。

具体的には、コロナ禍で感染対策をしながら対面授業を実施したが、学習者・支援者が顔を見て意思の疎通を図りながらの実施が如何に大事かを実践して学んだこと、また学習者からも強い継続希望があることから、オンライン方式も含めて更に発展させ、着実に実践していきたいと思っています。

また、その結果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体
☐ 強化、活性化した ☒ 概ね強化、活性化した ☐ あまり強化、活性化しなかった (理由)

【 ⑤必要性 】

団体と市が協働することで、行政サービスの充実・効率化等につながったか、協働による効果について記入してください。また、協働事業として実施し、良かった点や問題点等について記入してください。

団 体
本市の多文化共生推進プランの一環として実施していますが、第一次多文化共生推進プランを継続した、第二次多文化共生推進プランも策定されて実施される事になっています。これは、総務省の「多文化共生推進プラン」、「改正多文化共生推進プラン」、また1 昨年3月に策定された「千葉県多文化共生推進プラン」の指針には、団体（国際関係）と市が積極的に協働しての「在住外国人のための多言語化」や「日本語教室の開催」、「地域住民との交流」等の施策目標が掲げられており、本市の協働事業は、他の分野との連携も必要なことから、多文化共生推進施策プランとも合致しており、本市の行政全体のサービスにも貢献出来る大変良い事業だと思っている。
市
日本語教室の開催は、本来、行政が率先して実施・運営すべき事業であるが、市民団体である日本語教室委員会と協働により実施していくことで、住民目線に立った事業として円滑に運営することができた。コロナ禍で各種事業の開催がままならない時期があったものの、身近で生活に役立つ日本語の習得に向けた日本語支援を計画・実行できるのは、普段から在住外国人と接する機会が多い団体だからこその強みであり、協働事業の良さとしていかされている。 平成27年に制定された「大網白里市多文化共生推進プラン」は、今年度、在住外国人アンケート調査等を実施し、その内容について見直しを図っているところである。その中で、コミュニケーション支援の一環として日本語の学習支援は重要視されており、日本語の学習機会の提供、日本語を効果的に学ぶ体制づくりについては、今後も推進して行く必要がある。協働で在住外国人の日本語支援を行っていくことで、多文化共生推進プランの具体的施策を進めていくことになり、在住外国人が参加しやすい形態を検討しながら、今後も継続できる仕組みづくりを構築することができる。

また、その協働による効果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
☐ 効果があった ☒ 概ね効果があった ☐ あまり効果はなかった。 (理由)	☐ 効果があった ☒ 概ね効果があった ☐ あまり効果はなかった。 (理由)